

第4章 構想の実現に向けて

1) 市民参加を積極的に推進し、個性豊かなまちづくりを行う。

これからのまちづくりは、市民の積極的な参加のもとに、市民と行政が二人三脚で進めることが重要である。そのため、できるだけ市民参加の機会を充実し、これまで野田市が取り組んできた市民との協働作業を通じたまちづくりを継続する。また、市民との協働による魅力あるまちづくりをより実質的に進めるために、広報・広聴活動、情報公開を一層推進するとともに、計画の策定過程における市民参加に加え、計画の実現過程における市民参加をあらゆる分野で推進していく。

2) 社会環境変化に的確に対応し、魅力あるまちの実現に努める。

多様化し増大し続ける市民ニーズに的確に対応するため、常に変化し続ける社会環境を見据え、計画的かつ柔軟なまちづくりを推進していく。また、地方分権時代の到来により、市民や地域の視点に立ったまちづくりを推進していくことも時代の要請するところである。社会環境変化に的確に対応し、21世紀における新たな地方自治を確立していくためには、都市間競争に打ち勝てるようなまちの魅力づくりが大切であり、市民に身近な行政としての視点に立ったまちづくりを推進していく。

3) 行財政運営の効率化を図り、市民福祉の向上に努める。

市財源の根幹をなす市税等について常に新たな徴収対策を講じていくとともに、受益者負担のルール化等、負担の適正化の強化を図る。また、公有財産の有効活用を進める。

歳出についても、実効性のある行政評価手法の確立に努め、民間活力等を積極的に活用しインフラ整備を図るとともに、市役所窓口開設時間の延長等、市民サービスの向上に努めていく。加えて、収支面におけるプライマリーバランス^{注1)}の黒字化施策について堅持するとともに、債務残高に留意しながら、厳格な財政規律を保っていく。

また、地方分権が進む中、効率的な行財政運営を図るため、職員研修を充実し、職員の意識改革・能力向上を図る。

注1) プライマリーバランス……国の定義では、歳入から借金である国債等の発行額を除いた収入と、歳出から過去に発行した国債の元金返済金を除いた支出のバランスを指す。ただし、この場合には、均衡しても利払い費分だけ借金の残高は増加していく形になる。
そこで、野田市では、歳入から借金である市債等の発行額を除いた収入と、歳出から過去に発行した市債の元金返済金のみを除いた支出のバランスをとることにより、国よりも厳しい制約を行うことで、借金の残高を年々減らすようにしている。